

県が新たに育成したトマトのシリーズ名を「湘南ポモロン」と命名

野菜作物研究部

生食・加熱調理の両方に利用できるトマトを目標に育成した、細長いトマト「SPLシリーズ」の需要拡大と地産地消の推進を図るため、親しみやすい名称を知事が決定しました。

「湘南ポモロン」は、育成地である「湘南」とイタリア語で「トマト」を意味する「ポモドーロ」及び果実の形から「ロング」を組み合わせ、お菓子を連想させる可愛らしい名称としました。

特 性

- 果実の重さは60～80g
- 果形は長円筒形
- 果肉が厚く、多汁質、生食と調理の両方に利用可能
- 1果房あたりの着果数が多く、「湘南ポモロン・レッド」は5～7果、「湘南ポモロン・ゴールド」は6～8果程度着果
- 葉が小さく草姿はコンパクトで、株間25cmの密植栽培が可能



「湘南ポモロン」の着果の様子



「湘南ポモロン・レッド」

- 機能性成分であるリコペンが1.5倍程度、うまみ成分であるアミノ酸が1.2倍程度含まれています(含有率で大玉トマト対比)。
- うまみと酸味のバランスが良く、サラダやトマトソテーなどに向いています。



「湘南ポモロン・ゴールド」

- カロテノイドが豊富に含まれています。(詳しい機能性成分や量は現在分析中です。)
- あっさりとした味わいと鮮やかな色を生かしたサラダのほか、コンポート(シロップ煮)などデザートにも向いています。

両品種とも利用範囲が広い日常の食材として普及が期待されます。



「湘南ポモロン」を使った料理の一例

～ポモロンのカリカリ！チーズトマト～
作り方

- 1 トマトは半分もしくは、輪切りにする。
- 2 お好きなチーズとトマトをフライパンで焼く。
(チーズとトマトは同じフライパンで別々に焼く)
- 3 トマトは両面に焼き目をつけ、チーズに乗せる。

★小さいお子さんにも大好評。お酒のおつまみなどにも。

バラ株元加温による省エネルギー・高生産技術 (特開2010-119311)

果樹花き研究部

バラの株元加温は、アーチング仕立ての株元に温湯パイプを設置し、その上に光合成枝を折り曲げ、パイプ内に水を循環させ株元を効率的に暖めるシステムです。

アーチング仕立てでは、伸長した枝を折り曲げ、株元より低い位置に光合成枝を配することにより株元付近の芽が頂芽となり、出芽・伸長により常に株元付近で採花が行われます。そこで、株元に温湯パイプを設置し、30℃に加温した水を循環させることにより、省エネルギーを目的に室温を低下させても局所的に株元付近を最適な温度環境に保つことで切り花の生産性、品質を確保することができます。

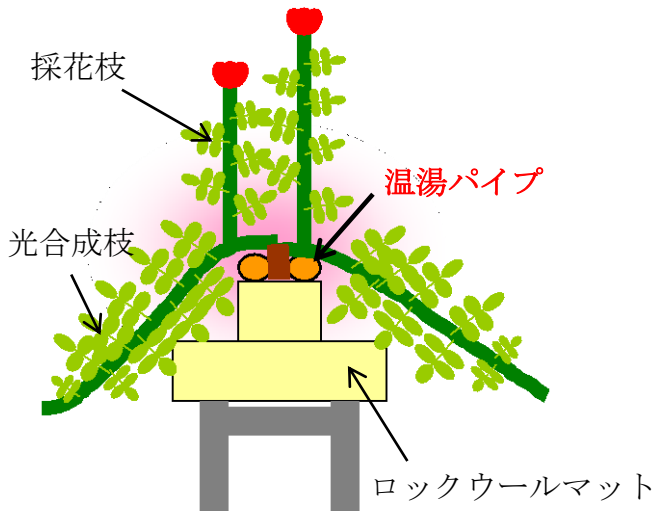


図1 システム概要図

システムの効果は、次のとおりです。

- ①採花本数が2～3割増加 ※1
- ②暖房経費が2～3割削減 ※2
- ③重油使用量を約36%削減 ※2
- ④切り花長が10cm程度長くなる ※1
- ⑤到花日数が3日程度短縮 ※1

※1 同一室温条件下で株元加温なし、株元加温ありとの比較

※2 室温18℃株元加温なし、15℃株元加温ありとの比較

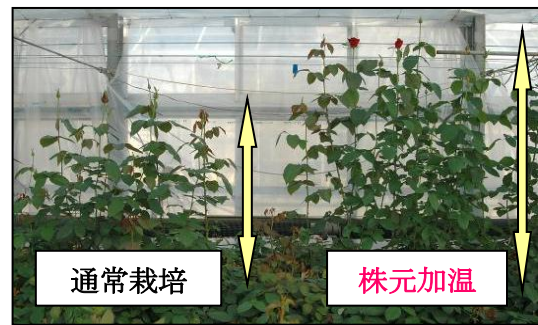


図2 株元加温における切り花長の違い

低濃度エタノールを利用した新しい土壌還元消毒法

野菜作物研究部・農業環境研究部・三浦半島地区事務所

低濃度エタノール処理とは、土壌に1%程度のエタノール水溶液を投入し、ポリフィルム等で表面を被覆、太陽熱によって微生物を繁殖させることで土壌を還元消毒するものです。

当所ではキュウリの施設栽培、カーネーション萎凋細菌病、及びカボチャホモプシス根腐病について農薬処理と同等の被害低減効果のあることを明らかにしました。

また、三浦半島地区事務所において実施したカボチャホモプシス根腐病に対する試験では、少かん水でも同等の効果が認められました。

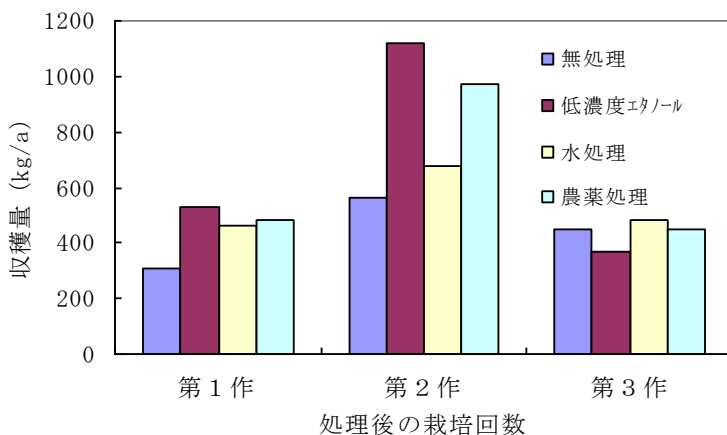


表 キュウリ施設栽培の収穫量の推移

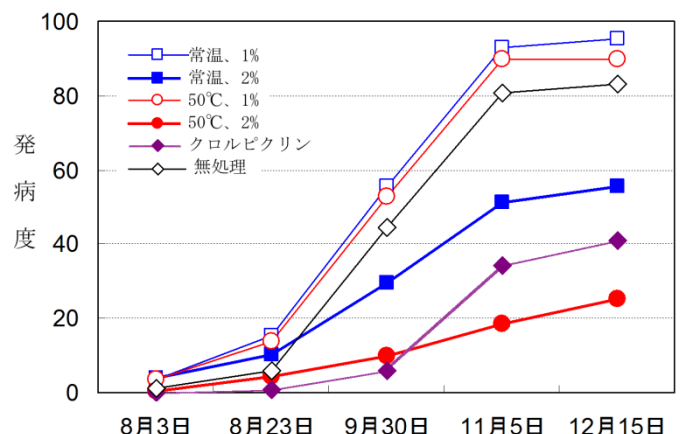


図 カーネーション萎凋細菌病の発病推移

※ 試験の詳細な条件などは農業技術センター試験成績書をご覧ください。

無加温パイプハウスによるパプリカ栽培について

三浦半島地区事務所

パプリカは、完熟して赤、黄、橙、茶に変わる品種と、未熟果のうちから紫、白、黒の品種があります。栄養価に富み、ピーマンに比べてビタミンCが2倍、カロテンが7倍ともいわれ、近年消費が増えてきましたが、約9割は韓国やオランダからの輸入が占めています。

そこで、①夏期に未使用のハウスなどを活用、②できる限り低コスト(無加温)、③7～12月にかけての長期安定生産、の3つを目標に試験を行いました。これまでの試験結果から、次のような栽培ポイントが明らかになりました。

- ①低軒高ハウスではつる下ろし誘引(無摘心)により、収穫段数を増やすとともに日焼け果を減らす。
 - ②側窓に0.4mm目合いネットの展張と天敵利用(スワルスキーカブリダニ等)により、オオタバコガ、コナジラミ類、アザミウマ類の同時防除を行う。
 - ③密植栽培(約200株/a、2本仕立て)により収穫果数を増やす。
 - ④定期的な殺菌剤散布で腐敗果を防ぐ。
- 以上の方法により、700kg/aどりが可能です。

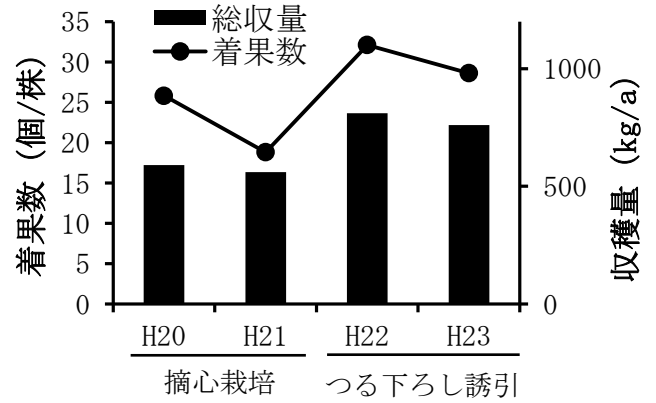


図1 誘引法の違いと着果数・収穫量の関係



図2 つる下ろし誘引 (10月)

6次産業化における農村女性起業の活躍について

横浜川崎地区事務所

管内では、農家女性が自らの持つ能力や技術を生かし、地域資源等を活用して展開する「農村女性起業」が増えています。女性起業の活動は、農業所得の増加だけでなく、農業そのものに活力を与え地域へ大きな影響を与えます。消費者とのコミュニケーション型の農業が多い当所管内では、女性起業と一言でいっても農産加工だけでなく、体験交流や農家レストラン、マルシェ(青空市)など様々です。

これまで、農業の6次産業化は女性起業にかかっているといわれながらも、「点」の活動である女性起業には実現不可能でした。しかし、集団であればその弱点を克服することができます。女性起業集団は、単なる生産・加工集団ではなく、第2次産業、第3次産業に相当する食のビジネスを実現できるからです。平成24年に発足した「田奈恵みの里直売部会加工班」(JA田奈管内25名の女性達)や、「加工倶楽部かながわ」(横浜市神奈川区の6名の女性達)は、組織的な生産体制で「点」の活動では実現できなかった共同加工と量産によるブランド化を実現しようとしています。当所は、個々の女性起業活動をネットワークでつなぎ、商品のセット販売の実現など、アグリビジネスとしての活躍へ向けた支援をしていきます。



図1 「田奈恵みの里・加工班」の共同加工



図2 「加工倶楽部かながわ」のマルシェ



図3 ネットワーク販売商品見本市

ダイコンにおけるナモグリバエ、白さび病・わっか症の同時防除

農業環境研究部

ナモグリバエは幼虫がダイコン等の葉内に潜って食べ進み、幅1～2ミリの白い筋の「絵描き」模様を残す難防除害虫です。白さび病はダイコン等の葉裏に乳白色の盛り上がった小斑点を生じ、さらにこの病原菌がダイコン根部に感染すると、「わっか症」と呼ばれる直径5mm程度の黒いリング症状を示し商品価値を著しく低下させます。

トルフェンピラド乳剤はナモグリバエに対する数少ない有効農薬ですが、白さび病・わっか症にも高い防除効果を示すユニークな農薬です。しかし、本農薬はダイコン1作につき2回しか散布できないこと、ナモグリバエ、白さび病・わっか症とも防除適期の幅が狭いことから、同時防除できる最適の防除時期を検討しました。

ダイコンの「秋まき年内収穫」の作型では、トルフェンピラド乳剤を10月下旬および11月上旬の2回散布するとナモグリバエおよび白さび病・わっか症を同時に防除することが可能になりました。

現在、「秋まき年内収穫」以外の作型や他の農薬との組み合わせ等も検討しており、両病虫害の防除体系を構築していきます。



イメージ図

酪農後継者グループ「角笛会」の活動

畜産技術所

湘南農協管内の酪農後継者で組織される「角笛会」は、農協・平塚市・当所と連携して活動を行い、酪農経営を取り巻く厳しい環境を乗り越えようと頑張っています。

課題解決方法の習得、技術・経営管理能力の向上を図るため、会員自身が課題を設定して行うプロジェクト活動は、今年度は「自給飼料生産の重要性」についての課題解決に取り組んでいます。

また、地域内の野菜や花きの後継者グループと即売会「美味花市（うまかいち）」に参加し、情報交換や消費者交流を行っています。堆肥の販売以外に、来訪者に自分たちをアピールできるものはないかと模索するなか、牛乳・乳製品の製造・販売の先進事例の視察を実施しました。この視察には、他地域の酪農後継者にも参加を呼びかける等、積極的な活動を行っています。



図1 飼料作物の生育調査



図2 牛乳加工施設の視察